

「美しいクモを探そう」

和仁道大 (千葉市)

日 時 : 2009 年 10 月 4 日 (日) 10 時 30 分 ~ 12 時 30 分 天気 : 晴

参加者 : 17 名 (大人 12 名、子供 5 名)

担当指導員 : 太田慶子 和仁道大

一般的にはクモは嫌われものと言われているが、この日集まった人たちにはクモ嫌いはいなかった。森の小径に入ると林縁の低い所に、巻いた枯葉がいくつもぶら下がっていた。葉を押さえると中から小さなクモが出てきた。名は体を表したハツリグモ。

さらに周辺の下草をよく見ると水平円網の中心付近に渦巻き状の隠れ帯をつけた、きれいな網があちこちに見られた。ウズグモである。霧吹きで網に水を吹き付けると、きれいに網が浮き出て見えた。

緑色の松葉かなと思われるのがオナガグモ。棒状をしているが、手で触れると脚が現れる。気がつかないとクモと思わずに通り過ぎてしまう。

4 本の縦糸に扇形に網を張って、扇の要の所にクモが静止しており、獲物がかかると張った網を緩めて獲物をからめ捕るというオウギグモがこの時期あちこちに見られた。

谷津田に下りると林縁沿いに水平円網を張った美しいオオシロガネグモ、そして水際には大きな黄と黒の縞模様のナガコガネグモがイナゴを食べていた。

この時期、高所に大きいきれいな網を張るジョロウグモの網には銀色の仁丹をまき散らしたようなシロガネイソウロウグモが見られた。

この日の目玉は千葉市のレッドリストでは X (消息不明・絶滅生物)、環境省 RD でも NT (準絶滅種) にランクされているキノボリトタテグモが確認されたことだ。このクモは古木の樹皮面を薄く削り、そこに片開きの扉を付けた細長い住居を作っている。まさに大草はいきものの宝庫と言えよう。

